

PICK UP 「大村市新幹線まちづくり推進協議会」設立総会

7/28

新幹線開業にふくらむ期待

市内のホテルで、「大村市新幹線まちづくり推進協議会」の設立総会が開催されました。同協議会は、商工会議所や観光コンベンション協会など15の関係団体が設立発起人となり、開業までの7年間、広報・啓発活動や、イベント、おもてなし計画などの活動を展開していきます。

新幹線の開業は、単に高速交通体系の二つを形成するだけでなく、交流人口の拡大や観光・ビジネス展開の可能性を向上させ、新たな雇用を生み出す起爆剤として大きな期待が寄せられています。

←設立総会には、会員や市民など約150人が参加。

↓駅前周辺整備イメージのプロモーションビデオが上映され、参加者は新幹線の開業に胸をふくらませていました。



会員を募集しています

同協議会では、個人や法人などの一般会員を随時募集しています。新幹線まちづくり推進室(内線159)へお問い合わせください。

PICK UP 伊丹市・大村市姉妹都市提携35周年記念式典 飯南町・大村市友好交流都市協定提携

8/3

2市1町の交流の絆を深める

本市と兵庫県伊丹市が姉妹都市提携35周年を迎え、関係者をお招きし、記念式典をさくらホールで開催しました。

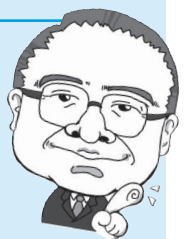
伊丹市が姉妹都市を提携している島根県飯南町とも今年で35周年を迎えることから、式典を合同で開催。本市もこれまで伊丹市を介して交流を深めてきた縁があり、このたび、飯南町との間で、友好交流都市協定を提携しました。

式典には、2市1町から約400人が参加。これまでのあゆみを祝うとともに、今後さらなる交流の絆を深めることを確認しました。

↓大村少年合唱団の皆さんが、それぞれの市・町歌を合唱し、35周年の節目を祝ってくれました。



↑山崎飯南町長、行澤伊丹市副市長をはじめ、関係者の皆さんに出席いただき式典を盛大に開催。飯南町と友好交流都市協定を提携し、幅広い分野で交流していくことを確認しました。



新図書館と新市民病院

市民の皆さん、県立・市立二体型図書館と新大村市民病院がいよいよ本格的に動き出しました。

思い返せば、「県立図書館を大村市へ」を合言葉に、市民一丸となって平成17年から誘致活動を展開しました。さまざまな困難を乗り越え、熱意が伝わり、平成25年に大村市への建設が決定しました。これから、昨年7月に策定した整備基本計画を基に、図書館に行けば何かに出会える、出会いにあふれた楽しい図書館をめざし、平成30年度の開館に向けて県と協力して整備を進めていきます。

また、同じ建物内に大村市歴史資料館(仮称)を併設します。市民の皆さんに、郷土の歴史に関心を持ち、郷土愛を育んでいただければと願っています。

一方、新大村市民病院も、建設工事が始まりました。市民病院は昭和26年に開院、昭和54年に現在の場所に移転し、救急医療や高度医療の提供など市民の健康維持と増進に努めてきました。しかしながら、慢性的な赤字経営が続くなど危機的な経営状況の中、地域の中核病院として維持していくために、公設民営化を導入し、病院の経営を民間に委ねることにしました。

あれから7年が経過し、経営は順調です。しかし、施設の老朽化が進み、市民の要望に十分に対応できない部分が増えてきました。そこで、コンパクトな病院を同じ敷地内に建設し、平成29年4月の開院をめざして着実に進めています。

幸いに、全国で本市を含め11都市が「都市再構築戦略事業」の採択を受けました。このことにより、新図書館と新市民病院にそれぞれ最大10億5千万円の社会資本整備総合交付金の支援を受けられます。

住みたくなるまちになるためには、どちらも欠くことができない重要施設です。多くの市民の皆さんに利用していただけるように工夫してまいります。

女性防火クラブ30周年記念式典

7/16

昭和60年に大村市女性防火クラブが結成され、今年で30周年を迎えるにあたり、大村消防署で記念式典が開催されました。同クラブは、家庭内での防火思想の普及を図るために日々活動しており、訓練や講座などで知識を身につけ安全・安心なまちづくりに貢献しています。



←これまでの活動を振り返りながら防火宣言。

地域へ防火の輪を広げるために

下水処理水を利用した稲作実証実験

7/7

浄水管理センターで、下水処理水を利用した稲作の実証実験を行うため、三城保育所の園児と一緒に敷地内で田植えを行いました。

この実験は、下水処理水を有効活用する検討の一つとして、処理水と井戸水の混合条件を変えて稲の生育や収穫量などを比較していきます。



←泥んこになりながら、実証実験のお手伝い。

下水処理水の有効活用を考える

(株)大川原製作所の立地発表式

7/17

乾燥装置の専門メーカー大川原製作所が「アルカディア大村」に設計拠点を設置することが決定し、立地発表式を市役所で行いました。式では、松本市長が「市民を代表して歓迎します。今後の事業展開に期待しています。」とあいさつ。新事業所は、来年4月から本格的に開始する予定です。



←大川原社長(写真中央)と松本市長が固い握手。

地域発展と雇用創出に期待

住民主導型地域活性化事業成果報告会

7/14

地域を活性させるため、住民の皆さんで考え、取り組む活動に市が支援する「住民主導型地域活性化事業」の成果報告会を市コミセンで開催しました。市内8地区の発表者が、昨年度取り組んだ成果を発表。出席した皆さんは、自分の地域にも取り入れようと、真剣に耳を傾けていました。



←各地区とも工夫を凝らした活動を報告しました。

地域の特性を生かした活動を報告

地方創生に係る高校生との意見交換会

7/28

地方創生の総合戦略の策定にあたり、次代を担う若い世代の意見を取り入れるため、市内4校の高校生と市長が意見交換会を行いました。交換会では、3世代交流イベントの開催による地域コミュニティの活性化や、若者が集う核となる施設の必要性など、さまざまなアイデアが出されました。



←意見交換した生徒の皆さんと記念撮影。

若い世代の意見を地方創生に

県知事要望

7/15

市長をはじめ、地元選出県議会議員や市議会議員などが県庁を訪れ、県の施策に関する要望書を提出しました。今回は6項目を要望。そのうち、国道34号大村-諫早間の拡幅事業促進、県道大村外環状線の整備促進、長崎空港の利便性向上・機能強化の3項目を重点的に要望しました。



←中村県知事に要望書を手渡し、意見交換しました。

県の施策について6項目を要望